国立大学イノベーション創出環境強化事業（令和２年度採択）フォローアップ調書＜アワード申請者用＞

法人名：国立大学法人岡山大学

令和４年７月

目次：

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

1．アワード申請要件の確認
2．民間資金獲得状況
3．取組の進捗状況
4．交付金の活用状況
5．大学収入の状況
6．その他

1．アワード申請要件の確認

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

(要件1) 共同研究費の間接経費率に関して、第3期中期目標期間における重点支援①②類型の大学で20%以上、重点支援③類型の大学で30%を超える間接経費率を学内の制度として導入していること

- 岡山大学は、以下のとおり学内の制度を導入しており、要件1を充たしている。

岡山大学共同研究取扱規程にて、以下のとおり規定しており、間接経費には「**直接経費の30%に相当する額**」のほか、研究者の価値を計上する「**研究者ナレッジ経費**」及び研究マネジメントの価値を計上する「**戦略的産学連携経費**」を含むことから、本学は**30%を超える間接経費率を制度として導入**している。

＜岡山大学共同研究取扱規程　関係箇所抜粋＞

（定義）
第2条
8　この規程において「間接経費」とは，直接経費の一定率に相当する額，研究者ナレッジ経費及び戦略的産学連携経費をいう。
（研究経費の負担）
第4条
4　直接経費の一定率に相当する額の間接経費については，直接経費の30%に相当する額を標準とする。（略）
5　研究者ナレッジ経費及び戦略的産学連携経費は，前項で算出する間接経費とは別に計上するものとする。

(要件2) 令和3年度の民間資金獲得の実績金額が、計画金額以上であること。

- 岡山大学は、令和3年度の民間資金獲得が、
  計画額 4.48億円に対し、実績額 6.18億円であり、要件2を充たしている。

2．民間資金獲得状況

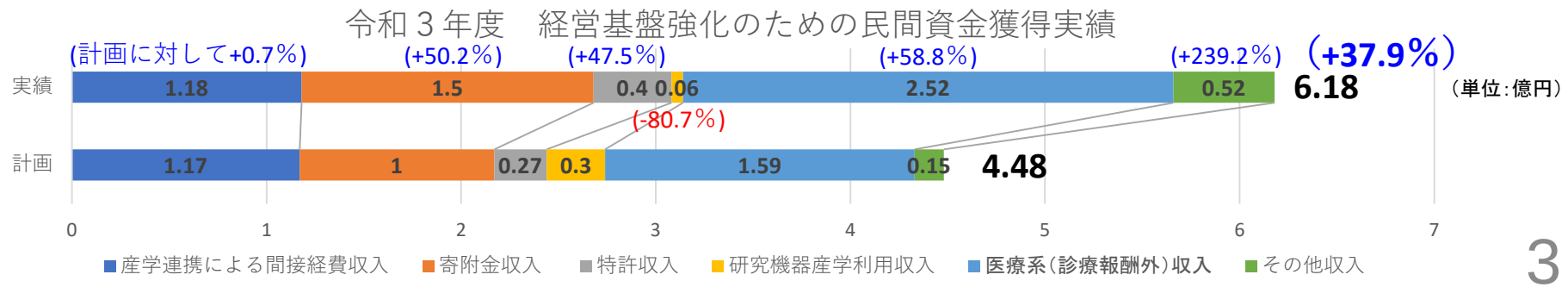
岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

＜令和3年度の計画と実績＞

費目	計画（単位：億円）	実績（単位：億円）	備考
産学連携による間接経費収入	＜*1.16*＞1.17	**1.18**	
寄附金収入	＜*0.80*＞1.00	**1.50**	
特許収入	＜*0.13*＞0.27	**0.40**	
研究機器産学利用収入※	＜*0.50*＞0.30	**0.06**	
医療系（診療報酬外）収入※	＜*1.15*＞1.59	**2.52**	
その他収入	＜*0.30*＞0.15	**0.52**	
民間資金獲得額（全体）	＜*4.04*＞4.48	**6.18**	

「産学連携による間接経費収入」について	計画（単位：億円）	実績（単位：億円）	備考
間接経費収入	＜*1.16*＞1.17	**1.18**	**対令和元年度144%（間接経費率32%）**
上記間接経費収入に対応する直接経費収入	3.91	**3.66**	
総額	5.08	**4.83**	

（＜*斜体*＞は申請時に提示した当初の計画金額であって、令和3年度フォローアップ調書にて正体の金額に変更）

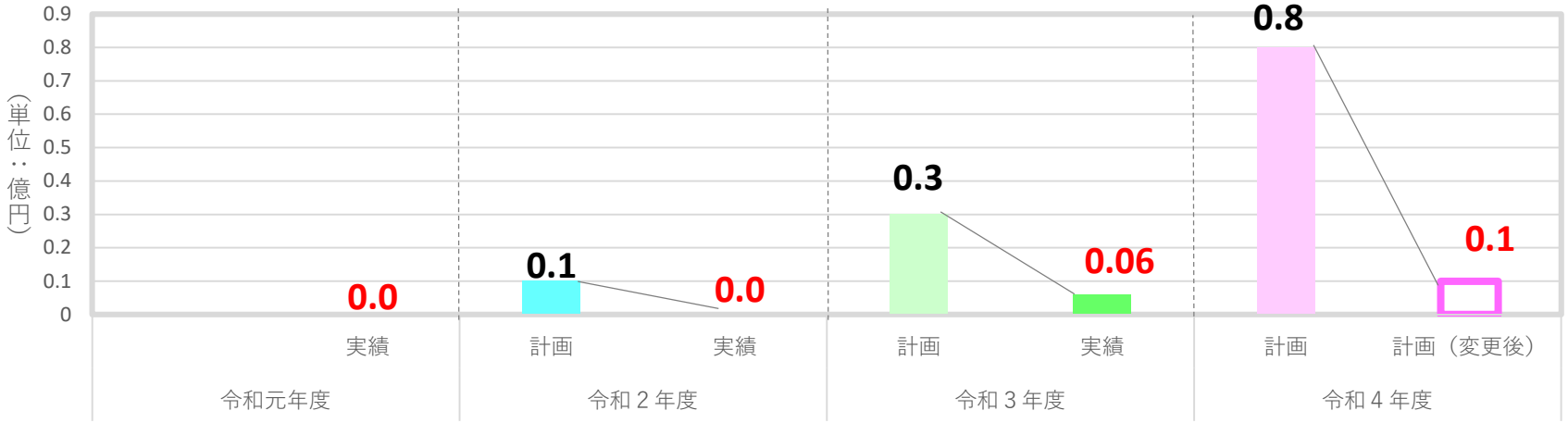


2．民間資金獲得状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

計画見直し

＜研究機器産学利用収入について＞



《概要・目的》遠隔総合物質解析システム　CASTEM 24 Remoteを構築し、産業利用・共同研究を推進する。

《令和3年度の計画と実績》計画 0.3 億円　**実績 0.06 億円**

《原因分析》主収益源である解析ソリューションビジネスには、ユーザとの信頼関係構築とオフサイト活用に適うセキュリティ構築が欠かせない。コロナ禍の影響により機器の代理店が買収されるなど想定外のトラブル等を乗り越え、後者は構築完了したが、前者の中核を担うオンサイト解析の推進には、産業界との密なコミュニケーションが必要であり、その確立に半年以上の遅延が発生した。

《改善策》 コロナによるユーザとの信頼構築の遅延挽回のため、新たなクロスアポイント雇用者（サイテックコーディネーター）をオンサイト解析業務に投入する。現在6社（売上TOP100企業）と緊密なコミュニケーションを確立し、共同研究とそのシーズの開拓を進めており、更に拡大を目指す。受注リードタイムの長さを勘案し、令和4年度の計画目標値は下方修正するものの、令和５年度には前年比100％増の収益を目指す。

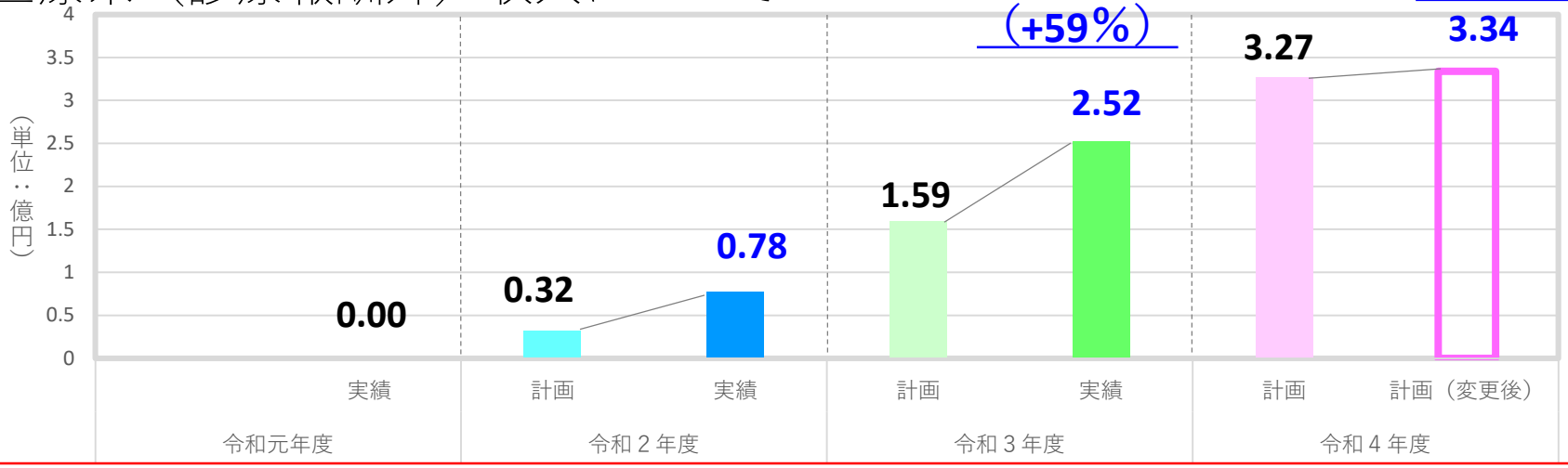
・令和4年度**0.1億円**＝セキュアネットワーク基盤の整備を完了。人件費企業負担の人員派遣受入の推進。
・令和5年度**0.2億円**＝前年度までに確立したCASTEM 24 Remoteを本格稼働させ、民間資金獲得を進める。

2．民間資金獲得状況

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

計画
上方修正

＜医療系（診療報酬外）収入について＞



《概要・目的》大学病院の持つ新たな価値として、ビジネスに直結している医療系活動を強化し「収入の増強」を推進する。

《令和3年度の計画と実績》計画 1.59 億円　**実績 2.52 億円**

《要因分析》大学全体のイノベーション創出マネジメント改革、産学共創機能の強化のため創設されたInnovation Management Core（IMaC）の指揮のもと、戦略的・組織的産学共創を加速させるため、高度研究支援人材等を配置した。また、強みの分野への人的支援やリソースの集中により、共同研究等の外部資金を獲得した。さらに、BIZEN（Busines Innovation Zone for Entrepreneurship)プロジェクトを開始し、**民間企業ラボ誘致**や、研究開発支援費等の獲得につなげた。岡山大学病院内の「新医療研究開発センター」「バイオバンク」「医療情報部」等の連携及び体制強化により検体分譲（診療情報付）及び医療情報を活用した共同研究等の外部資金を獲得した。

《上方修正》令和3年度の実績・要因分析を踏まえ、令和4年度以降の計画を上方修正する。
なお、数字の根拠は以下のとおり。

・令和4年度**3.34億円**＝令和３年度に強化した取り組みを実質化させ、さらに持続可能なものとする。**医療情報・検体分譲**のマッチングシステムを活用した**外部提供件数増**、Club150会員勧誘の強化、高度研究支援人材による研究開発費の獲得を強化し、イノベーション創出につなげるエコシステムを**拡充・発展させる**。

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

＜取組概要＞

取組	令和2年度自己評価	令和3年度自己評価	取組の拡充・追加	内容
イノベーション・マネージメント・コア（IMaC）の創設	○	○	―	**IMaC**（アジャイル型組織）を**R2.10に設置**。各取組を先導しイノベーション創出を推進。**「組織」対「組織」の産学連携を推進**すべく、該当プロジェクトを選定し運営を開始。また、ERM本部を創設、事業継続専門人材育成し本学のロールモデルの一種となるよう本格運用を開始。
共同研究における費用負担適正化	○	○	―	R3年度から「産学官連携ガイドライン」に対応した新料金算定方式（知の価値付方式、総額方式）の制度を導入した。 これにより、間接経費率は目標の30％を**大きく上回る32％を達成**した。また、民間からの間接経費収入について目標額以上の**1.18億円を達成**した。
新知財戦略の策定と実施	◎	◎	―	本取組において策定した新知財戦略等に基づき、知財の活用及び技術移転に重きを置いた活動に注力した結果、令和２年度及び令和３年度ともに**目標額を大きく上回る知財収入を獲得**した。（令和３年度**達成率147％**）
寄附金獲得体制の強化・充実	◎	◎	―	計画どおり実施し、寄付額は目標額1.0億円を**上回る1.50億円を達成**した。
大学院改革プログラムによる地域企業参画組織の創設	―	◎	―	「教育の価値」を「収益の価値」に転換する当初計画であったが、計画を発展させ、地域創生に貢献し地域・産業界と協働する岡山大学の「共育共創」窓口としての機能を担う「岡山大学パートナーズ」を設置する計画に変更。
大学発ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ・ﾍﾞﾝﾁｬｰ支援及び既存のｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ・ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業との協働	◎	◎	―	**３社が起業し、目標達成**。学内及び外部機関と連携した支援体制を強化。支援対象者がビジネスコンテストで受賞したほか、すそ野拡大事業の実施により、**起業部の創設**などにつなげた。 さらに「デジタル田園都市国家構想」においても本学発のスタートアップが参画しており、スタートアップエコシステムの場を構築した。
遠隔総合物質解析システム（CASTEM）による共用機器の産業利用	△	△	―	**民間企業3社との共同研究・受託分析・コンサルタント事業を実施**。当初計画は未達（0.06億円）となったが、事業内容に高い評価を得、契約の延長や売上げTOP100企業と交渉を行っており、**事業発展が見込まれる**。

3．取組の進捗状況

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

＜取組概要＞

取組	令和2年度自己評価	令和3年度自己評価	取組の拡充・追加	内容
大学病院が持つ新たな価値としての診療外事業としての収益確保強化	◎	◎	**拡充**	体制整備を図り、収益は目標額1.59億円を**大きく上回る2.52億円を獲得**した。また、施設設備、体制強化、収益増となる運用スキームの検討を進めた。令和4年度以降、特に**医療情報/検体を活用した人材育成PGや分譲収入等を拡充**する。
ヘルスケア領域におけるデジタル田園都市国家構想への挑戦	―	―	**追加**	**本学研究担当理事がリードアーキテクトとして参画するデジタル田園健康特区（岡山県吉備中央町）を中心に**、ヘルスケア領域における叡智を用いて、少子高齢化が著しい中山間地域のあるべき医療モデルを構築することを通じ、**共同研究等の獲得を図る**。 また、検討中の段階ではあるが、特区事業の事務局機能に本学として参画することを通じ、大学の機能の一部を「出島化」させ、従来の既存のキャンパスに縛られた取組からの脱却を図るとともに、これらの改革を推進する中で、スタートアップや民間資金の獲得等を強化する。

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組１】イノベーション・マネージメント・コア（IMaC）の創設

令和2年度自己評価	令和3年度自己評価	取組の拡充・追加
○	○	―

オープン イノベーション機構
＜競争領域＞

非医療系 ⇕ **連携**

研究推進機構
＜非競争領域＞

統合

価値創造統合 リスクマネジメント本部（ERM本部） 創設

継続

■オープンイノベーションチャレンジ
■スタートアップ・ベンチャー共創促進インセンティブ事業　実施

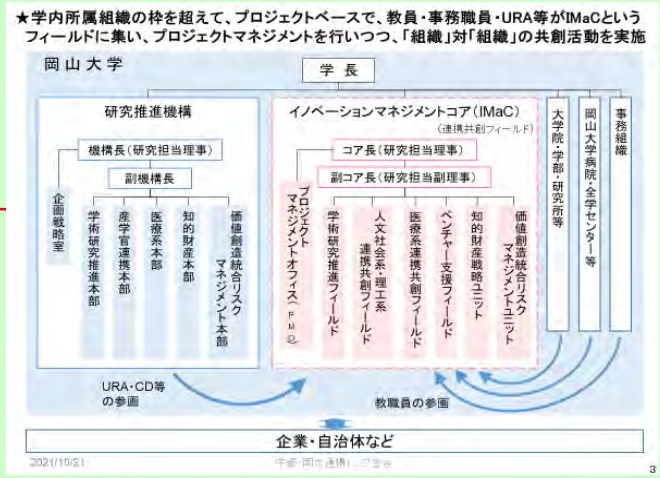
取組8と連動、IMaC主導型プロジェクトマネジメント　適用

IMaC ※（Innovation Management Core）設置運営

自律分散のアジャイル型組織

- オープンイノベーションの場
- 全学組織横断的な産学連携強化のHead quarter
- 組織対組織
  大型産学共創研究⇧、間接経費⇧ ライセンス料⇧、産学マネジメント経費⇧⇨経営に貢献
- 中国銀行との人材交流（相互1名）
  中国経済産業局との人材交流による連携強化

※学術研究や産学連携、橋渡し支援機能を集約したイノベーション創出を全学的に推進する中核組織



集約

医療系：新医療研究開発センター（橋渡し研究支援室等）と運営フィールドで連携

点検・改善

IMaC安定的運用、点検・評価・改善と出島化の検証

令和２年度実績

1）組織対組織の共同研究推進、OI機構、研究推進機構、橋渡し拠点統合化への準備推進
2）オープンイノベーション・チャレンジ（OIC）、スタートアップ・ベンチャー共創インセンティブ事業実施
3）ERM本部の創設、研修実施、事業継続専門人材育成

令和３年度実績

1）業務の詳細分析、運営方法確定
2）橋渡し拠点等医療系連携、IMaC創設
3）PJ選定と組織的PM機能の運営
4）OIC、SVIの安定的実施
5）機能の一部出島化を見据えたPJ外出検討
6）ERMの全学展開、体制構築･運用、ABCP資格取得推進など人材育成、学外へのﾉｳﾊｳ提供

令和４年度計画

1）IMaCを安定的に運営し、大学経営に貢献
2）出島化に関するロードマップに従って業務、PJを評価
3）ERM体制の本格運用 →大学経営の新機軸

令和5年度計画

1）IMaCを安定的に運営し、大学経営に貢献
2）活動内容の点検・評価・改善実施
3）産業界、地域への積極参画
4）出島化構想について、ﾒﾘｯﾄ・ﾃﾞﾒﾘｯﾄを検証

*：Enterprise Risk Management 統合リスク管理

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組２】共同研究における費用負担適正化

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
○	○	－

R3実績 1.18億円
R3計画 1.17億円

達成率 101% → 計画どおり実施

令和２年度実績　1.10億円

1）民間企業からの間接経費収入について目標額1.09億円を上回る1.10億円を達成した（令和元年度比134%）。また、**間接経費率は目標どおり28%を達成**した。
2）「産学官連携ガイドライン」に対応した**新料金算定方式（知の価値付方式、総額方式）の制度を構築した**。
・**研究者の価値**を「**研究者ナレッジ経費（間接経費）**」として令和3年度から料金に算定可能とした。
・**研究マネジメントの価値**を「**戦略的産学連携経費（間接経費）**」として令和3年度から料金に算定可能とした。
・企業からみた当該共同研究の価値付けによる総額方式を令和3年度から選択可能とした。

令和３年度実績　1.17億円 ➡ 1.18億円

1）民間企業からの間接経費収入について**目標額を上回る1.18億円を達成**した（令和元年度比144%）。また、**間接経費率は目標の30%を大きく上回る32%を達成**した。共同研究の新規契約案件について、令和3年度から算定可能とした知の価値付け等による新料金算定制度に基づき、コーディネーターが間接経費率30%以上を目標に企業に対して共同研究経費の交渉を実施した。
2）知の価値付け等による新料金算定制度について、本格的に実施（研究者ナレッジ経費の浸透）した。（**令和3年度30件、当該分の間接経費率60%**）
3）**産学連携活動用研究者紹介システム構築**及び公開による獲得資金の増加を図った。

令和４年度計画　1.25億円 ➡ 1.25億円

1）民間企業からの**間接経費収入1.25億円、間接経費率32%以上**を目標とする。
2）知の価値付け等による新料金算定制度の検証及びさらなる実施をする。
3）産学連携活動用研究者紹介システムの利活用を行い獲得資金の増加を図る。

令和5年度計画　1.29億円

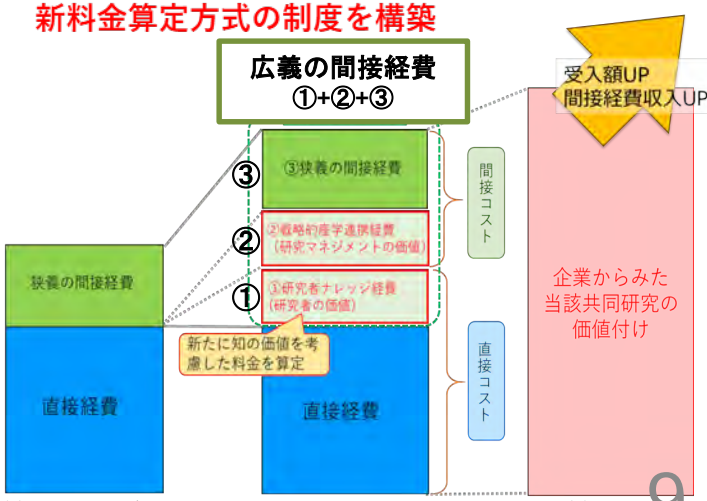
1）民間企業からの**間接経費収入1.29億円、間接経費率32%以上**を目標とする。
2）知の価値付け等による新料金算定制度のさらなる浸透及び普及を図る。
3）産学連携活動用研究者紹介システムの利活用を行い獲得資金の増加を図る。

R3年度間接経費率32%を達成
間接経費収入はR1年度比144%

共同研究費の間接経費収入(見込)額(R2~R5)

年度	受入額	備考	
R2年度	109,514千円	間接経費率28%(対R1年度+27,574千円)	対令和元年度比134%
R3年度	117,829千円	間接経費率32%(対R1年度+35,889千円)	対令和元年度比144%
R4年度	125,122千円	間接経費率32%(対R1年度+43,182千円)	対令和元年度比153%
R5年度	128,875千円	間接経費率32%(対R1年度+46,935千円)	対令和元年度比157%

「産学官連携ガイドライン」に対応した新料金算定方式の制度を構築



3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組３】新知財戦略の策定と実施

令和2年度自己評価	令和3年度自己評価	取組の拡充・追加
◎	◎	―

R3実績0.40億円
R3計画0.27億円

達成率 147%

計画どおり実施

令和２年度実績　0.27億円

1）知財の活用等をより重視する内容で**知的財産ポリシーを改訂**
2）活用を意識した知的財産マネジメント等を骨子とした**新たな知的財産戦略を策定**
3）知財収入目標額0.13億円を大きく上回る**0.27億円を達成（達成率208%）**

令和３年度実績　0.27億円➡0.40億円

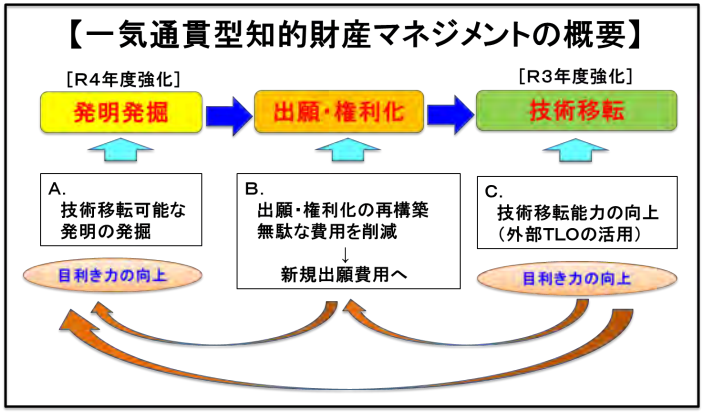
1）新知財戦略及び改訂版知的財産ポリシーに基づき、技術移転活動に注力
2）外部TLOからの人員受け入れにより、技術移転に関する目利き力が向上
3）**「一気通貫型知的財産マネジメント」体制（システム）を構築**
4）知財収入目標額0.27億円を大きく上回る**0.40億円を達成（達成率147%）**

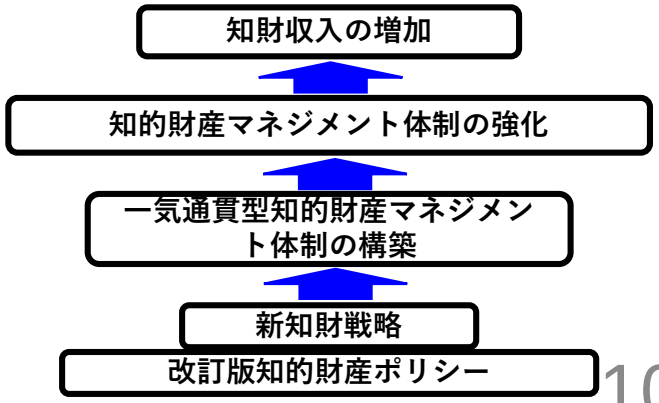
令和４年度計画　0.28億円➡0.28億円

1）保有出願・権利を技術移転可能性の視点から再構築（無駄な出願権利を放棄⇒経費削減⇒新規出願費用へ回す）
2）引き続き、外部TLOとの連携により、知財収入の獲得に注力

令和５年度計画　0.29億円

1）保有出願・権利を技術移転可能性の視点から再構築（無駄な出願権利を放棄⇒経費削減⇒新規出願費用へ回す）
2）外部TLOとの連携強化により、知財収入増大に注力
3）知的財産マネジメントの強化





3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組４】寄附金獲得体制の強化・充実

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
◎	◎	―

R3実績1.50億円
R3計画1.00億円

達成率 150%

計画どおり実施

令和２年度実績　0.79億円

［体制の強化・充実］
1）広報宣伝の専用車両（ラッピングカー）を導入して企業訪問を円滑に行った。
2）学都基金のホームページをスマホ等への対応を含め全面改修し、募金広報の充実を図った。
［取組事例］
1）「**新型コロナウイルス感染症関連支援」の特定基金を学都基金に設置**、学内教職員並びに同窓生を中心に広く寄付を呼びかけた。
2）**三井住友信託銀行が企画実施する「新型コロナワクチン・治療薬開発寄付口座」への参画**により、大学関係者以外にも広く寄付を呼びかけた。

以上の取組により，寄付実績は令和元年度0.48億円から大幅にアップし**令和２年度0.79億円**（利息・運用益を含む）となり，計画以上に進捗した。

令和３年度実績　1.00億円 ➡ 1.50億円

［体制の強化・充実］
1）**関東圏を担当する専任のファンドレイザーを1名増員**して、企業、同窓生からの寄付金獲得を強化した。
［取組事例］
1）学内教職員並びに同窓生を中心に広く寄付を呼びかけるとともに、**「新型コロナウイルス感染症関連支援」による寄付募集**を令和2年度から引き続き実施し、継続寄付を募った。
2）**三井住友信託銀行が企画実施する「医療支援寄付信託」及び「遺言代用寄付信託」への参画**により、大学関係者以外にも広く寄付を呼びかけた。
3）新規の寄付講座獲得に向けた取組を強化した。

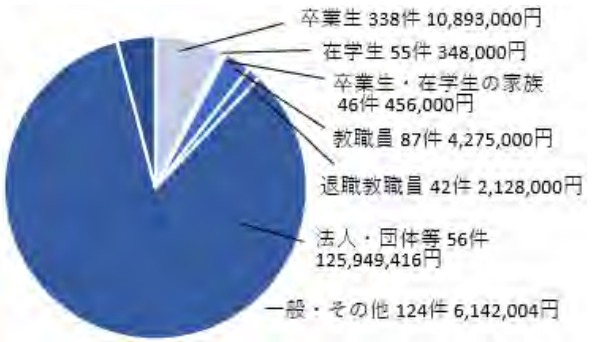
以上の取組により，寄付実績は令和２年度0.79億円から大幅にアップし**令和３年度1.50億円**（利息・運用益を含む）となり、計画以上に進捗した。

令和４年度計画　1.20億円 ➡ 1.20億円

1）企業、同窓生からの寄付金獲得の活動を積極的に推進する。
2）三井住友信託銀行が企画実施の寄付事業を引き続き実施し、 岡山大学Alumni（全学同窓会）とも連携して新たな寄付層の開拓を進める。

令和５年度計画　1.20億円

1）企業、同窓生からの寄付金獲得の活動を積極的に推進する。
2）三井住友信託銀行が企画実施の寄付事業を引き続き実施し、 岡山大学Alumni（全学同窓会）とも連携して新たな寄付層の開拓を進める。



▲令和3年度学都基金寄付実績（内訳）

▲寄付者への感謝状贈呈式の様子

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組５】大学院改革プログラムによる地域企業参加組織の創設

令和2年度自己評価	令和3年度自己評価	取組の拡充・追加
—	◎	—

R3実績0.52億円
R3計画0.15億円

達成率 339%

計画どおり実施

令和２年度実績　0.02億円

1）既存の「産学官融合センター研究協力会」について会員拡大活動を実施した。
2）大学院改革・産学共創に関するアンケートを実施し
「岡山大学パートナーズ」への入会意向調査を行った結果、51%（63社中32社）から検討可能との回答を得た。
3）**「岡山大学パートナーズ」の設置**のため設置規程と会則を整備した。
4）共同研究促進のためのプロモーションコンテンツ作成に着手し、第1弾となる**研究室カタログ（研究シーズ集）**を完成・公開した。

令和３年度実績　0.15億円 ➡ 0.52億円

《改善策の実行》

1）プロモーションコンテンツを拡充し、**「研究シーズ集」**90事例を公開した。
2）全学を挙げて地域のステークホルダーとのつながりを深化・拡大するため、「岡山大学パートナーズ」の**事務局を総務･企画部の管轄下に移管し全学体制で実施**する整理とした。
3）次世代経営者を主対象とする**「おかやま経営実践塾」**を開講し、令和4年度より高単価高品質なセミナーを提供することを決定した。R3年度内には**プレ事業**を実施した。
4）「岡山大学パートナーズ」のパンフレット、ウェブサイトを完成・公開した。

▲共育共創の大学院改革イメージ図

令和４年度計画　0.24億円 ➡ 0.61億円

《改善策の実行》

1）プロモーションコンテンツの継続的な拡充
2）**「岡山大学パートナーズ」の会員勧誘活動の強化**
3）「岡山大学パートナーズ」WEBサイトによる広告収入の獲得
4）**「おかやま経営実践塾」**は当初計画では外注も活用し、多数の受講者を受け入れることを計画していたが、地域のニーズにより密着したオーダーメードで高品質なPGを展開する。
5）リスキルを目的とした**リカレント教育**の提供等による受講料増収。

▲岡山大学パートナーズのＷＥＢサイト

令和５年度計画　0.62億円

1）プロモーションコンテンツの継続的な拡充
2）**「岡山大学パートナーズ」の会員勧誘活動の強化**
3）「岡山大学パートナーズ」WEBサイトによる広告収入の増加
4）**「おかやま経営実践塾」**は初年度の経験を踏まえ、受講者数を1.5倍化する。
5）**リカレント教育の新規発掘**、PGに係る受講料の見直しを行い、**受講料増収を図る**。

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組６】大学発ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ・ﾍﾞﾝﾁｬｰ支援及び既存のｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ・ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業との協働

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
◎	◎	―

R3実績3社
R3計画3社

達成率 100%

計画どおり実施

令和２年度実績　3社

■起業実現支援　~起業数増大
1）(株)中国銀行・(株)リバネス・中小機構等とベンチャー支援体制の構築を推進
■起業体質改善　～すそ野拡大
1）技術ドリブンで課題解決に取り組む学生サークル「データサイエンス部」(ＤＳ部)創設支援
2）学生による起業支援イベント（２回）の開催等を支援
3）医療系シーズ及びベンチャーPR記事を６報作成し、順次PRTIMESに掲載
4）ヘルスケア分野の新事業創出活動「岡山リビングラボ」の活動を支援

令和３年度実績　3社 ➡ ３社

■起業実現支援　~起業数増大
1）学内のスタートアップ・ベンチャー支援体制及び中国銀行・（株）リバネス・ 中小機構等**多様な外部支援機関との起業支援に係る連携体制の構築・強化⇒サポートメニュー説明会、大学発ベンチャー起業支援事業等（うち1名が起業、2名がビジネスコンテストで受賞）**
2）**岡山大学発ベンチャー称号授与制度創設、６社に授与⇒授与企業(株)TechSwordが2021キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で文部科学大臣賞**
■起業体質改善　～すそ野拡大
1）学生主体の活動支援強化⇒**「岡山大学起業部」創設（全学からの学生約30名が所属）**
2）アントレプレナー・イントレプレナー教育の実施⇒**角川アスキー総合研究所と連携した教育プログラム開催・成田悠輔氏トークライブ＆セッション＋公開メンタリング**
3）ベンチャー関係コンソーシアム等との連携（**広島大学JST-START事業への参画**）⇒**採択**
4）ヘルスケア分野の新事業創出活動への支援（**岡山リビングラボ活動支援**）

▲2021CVG全国大会文部科学大臣賞受賞

▲岡山大学発ベンチャー称号授与式での集合写真

令和４年度計画　5社 ➡ 5社

■起業実現支援　~起業数増大
1）学内の支援体制及び外部支援機関との起業支援に係る連携体制の一層の強化
⇒ﾋﾟｯﾁｲﾍﾞﾝﾄ開催、ｻﾎﾟｰﾄﾒﾆｭｰ説明会開催、大学発ﾍﾞﾝﾁｬｰ起業支援事業実施、START事業参画等
■起業体質改善　～すそ野拡大
1）令和３年度の取組みをベースとした支援等の継続及び充実

令和５年度計画　5社

■起業実現支援　~起業数増大
1）学内の支援体制及び外部支援機関との起業支援に係る連携体制の一層の強化・拡大
⇒ﾋﾟｯﾁｲﾍﾞﾝﾄ開催、ｻﾎﾟｰﾄﾒﾆｭｰ説明会開催、大学発ﾍﾞﾝﾁｬｰ起業支援事業実施、START事業参画等
■起業体質改善　～すそ野拡大
1）令和４年度までの取組みをベースとした支援等の継続及び拡大

▲公開メンタリングの模様

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組７】遠隔総合物質解析ｼｽﾃﾑ(CASTEM)による共用機器の産業利用

令和2年度自己評価	令和3年度自己評価	取組の拡充・追加
△	△	―

R3実績0.06億円
R3計画0.3億円

達成率 19%

計画見直し

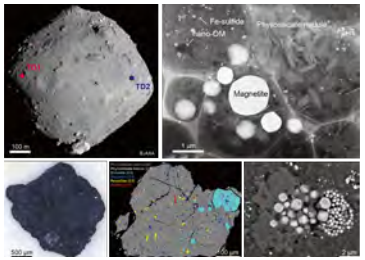
令和２年度実績　0億円

1）CASTEM 24 Remoteの機器類をリンクする**専用ソフトウエア**の開発等機器の整備実施。
2）事業取組の支援を行う**サイテックコーディネーター**2名が着任。**民間企業から**1名（**クロスアポイントメント**）の採用を決定。
3）民間企業からの委員6名を加えた**CASTEM 24 Remote運営協議会**を設置、開催。

令和３年度実績　0.3億円 ➡ 0.06億円

1）民間企業の機器利用の基盤となる**セキュリティを重視したネットワーク整備**を実施・運用を開始。
2）前年度で退職となった本取組実行責任者を産学連携コーディネータ（特任教授）として引き続き雇用し、取組の進展を加速。
3）「スペースサイエンスワールド星取県」(鳥取県主催)にて小惑星リュウグウ試料の遠隔観察をデモし、**機器遠隔利用の有効性を一般企業にアピール**。
4）**民間企業3社**とCASTEM　24 Remoteを用いた事業を推進。

※詳細は1.民間資金獲得状況にて説明



CASTEM24Remoteを用いた小惑星リュウグウ総合解析結果を発表

令和4年度第1回運営協議会

令和４年度計画　0.8億円 ➡ 0.1億円

1）前年度までに構築を完了した**CASTEM 24 Remote基盤**を活用し、令和3年度に開始した民間企業との共同研究、受託分析事業をさらに拡大する（現在**売上高ランキングトップ100に位置する6社**と交渉を進めており、うち**3社**と共同研究を実施）。また学産ｺﾝｿｰｼｱﾑを活用し、民間との新しい事業をスタートさせ目標とする収入の獲得を目指す。
2）民間企業とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをより円滑迅速に進めるため、学内の本事業実施体制を拡充する。
3）CASTEM 24 Remoteシステムを、学内外（民間企業・他研究機関）に普及させ、**新しい機器共用プラットフォーム（バーチャルラボ）**を構築する。
4）CASTEM 24 Remoteを活用した**リュウグウ試料総合解析**などの先進的研究実績を基盤に、多様な解析機器のデータ標準化を進め国際的な**研究開発イニシアチブを担う体制**を整備する。

機器運用支援を行う民間からのサイテックコーディネーター

研究アウトリーチ（場所：バンドー神戸青少年科学館）におけるCASTEM 24 Remoteのデモンストレーション・PR

令和5年度計画　0.2億円

1）CASTEM 24 Remoteを活用した共同研究の数を**10件**に拡大し、目標とする収入の獲得を目指す。
2）事業の自律的運営基盤となる**サイテックコーディネーター**、**サイテックアドミニストレター**等人的体制を拡充し、産学連携をCASTEM 24 Remoteを中核として継続的に運営する体制を確立する。

新しい大学発の研究開発基盤を構築し、先端的研究をベースに、産業界による機器利用の促進へ。

3．取組の進捗状況

令和2年度自己評価	令和3年度自己評価	取組の拡充・追加
◎	◎	拡充

【取組８】大学病院が持つ新たな価値としての診療外事業としての収益確保強化

令和3年度実績 2.52億円
令和3年度計画 1.59億円

民間資金獲得が次の施策に繋がり、次なるイノベーション創出を起こす研究へ投資するイノベーションエコシステムを構築

※詳細は２.民間資金獲得状況にて説明

R3達成率 159%

➡ 計画上方修正

「意識変革」

診療報酬によらない収入の獲得

自らのリソースを収益へ転換

（情報、画像、バイオバンク、遊休スペース、機器利用、支援・・）

令和５年度計画　3.50億円（計画）　**維持・安定**

令和４年度までの取組を更に強化し、持続可能な収益獲得策を構築

1）BIZENﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄと高度研究支援人材の支援の維持・発展

2）バイオバンク及びゲノム医療総合推進センターでの共同利用機器利活用の推進

令和４年度計画　3.27億円 ➡ 3.34億円（上方修正）（うち６月末現在の実績1.27億円）

令和３年度までの取組を強化し、収益獲得策を発展・拡充

1）**検体分譲ﾏｯﾁﾝｸﾞｼｽﾃﾑの加速**による収益増

2）大型委託研究事業費の増加

3）BIZENﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄと高度研究支援人材の支援により**大型共同研究等を獲得**

発展・拡充

令和３年度実績　1.59億円 ➡ 2.52億円（実績）　**実質化・拡充・加速**

令和２年度取組の強化・加速化、体制拡充から

1）OIラボ竣工：**企業等への貸付料・BIZENプログラム会員**（先行実施、次世代人材育成）

2）**高度研究支援人材**の目利きと支援による大型外部資金の獲得

3）Club150制度の確立により、**会員獲得による寄附金増**

4）医療情報を活用した共同研究、検体分譲（診療情報付）、**先端設備整備による大型共同研究等の獲得**

令和２年度実績　0.78億円　**始動・環境整備**

大学の戦略的・組織的産学共創の加速構想のもと

1) 高度研究支援人材（民間・省庁経験者等）、テクニカルスタッフ等 の配置➡外部資金（共同研究等）の増、研究開発支援費

2) 新医療研究開発センター、バイオバンク、医療情報部等の連携体制強化➡検体分譲収入（診療情報付）

3) 共同研究・情報分譲等、民間からの資金を呼び込む建物・設備の整備（繰越事業）

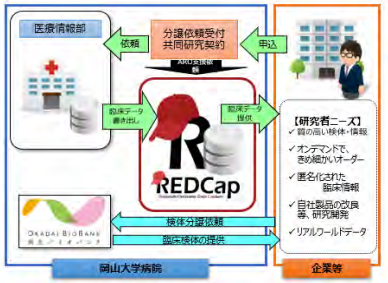
4) 次年度事業加速のため、料金表、分譲要項、Club150寄附制度検討

オープンイノベーションラボ

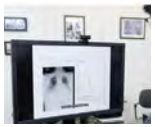
寄附制度（Club150）

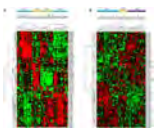
BIZEN Business Innovation Zone for Entrepreneurship

高度研究支援人材 BIZENプロジェクト



院内センターの強い連携による医療情報・検体分譲が次世代医療開発を生む





最先端解析システム群

唯一無二の最先端設備が民間資金を生む（大型共同研究・受託解析・機器使用料）

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組８】大学病院が持つ新たな価値としての診療外事業としての収益確保強化

医療情報/検体の活用による収益の拡充

■これまでの活動

医療情報やバイオバンクでの医療検体を共同研究で活用すべく外部研究者や企業に分譲を進め、そのためのインフラも構築した。

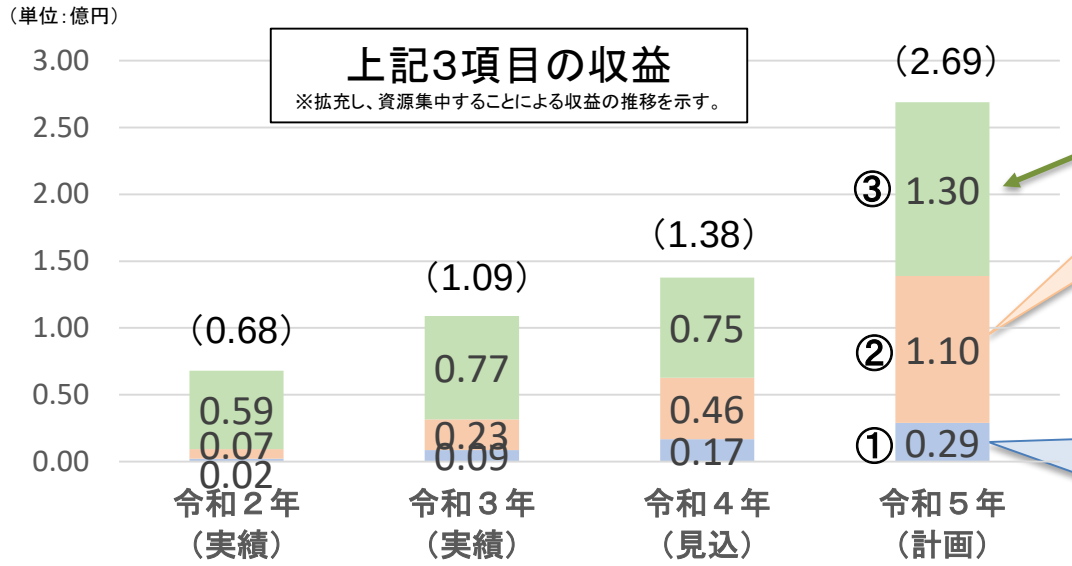
■課題

自らが研究企画を計画・立案し、実行できるような人を育て、研究の質向上と件数増、収入増をはかる。

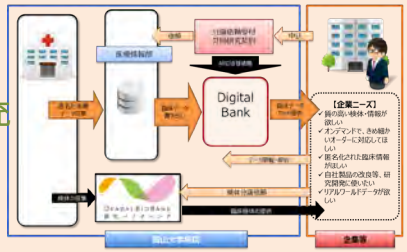
■拡充のための施策

内部向けには、これら企業との共同開発をマネジメントできるデジタル化に対応したイノベーション人材の育成を行い、外部向けには、医療機器・AI開発者リカレント教育のためのオープンイノベーションプログラム（有償）を活用した人材育成を行う。

これにより、**①人材育成自体での収益**、**②情報・検体分譲の収益**、更に**③共同研究**の収益を拡充させる。



②情報・検体分譲
とそれを活用した
③共同研究の拡充



①人材育成
（オープン・イノベーション・プログラム）

BIZEN Business Innovation Zone for Entrepreneurship

AI教育プログラム

高度研究支援人材

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組９】ヘルスケア領域におけるデジタル田園都市国家構想への挑戦（健康特区事業含む）

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
―	―	追加

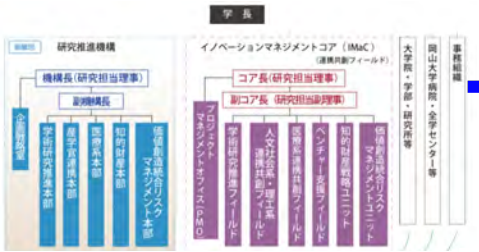
【概要・背景】地方では産業の空洞化、交通・物流インフラの衰退、教育機会の減少などに起因する、高齢化や過疎化が進んでおり、大都市圏との経済的・社会的な格差が深刻化している。このような地域格差を是正するため、岸田内閣が進める**「デジタル田園都市国家構想」**においては地方へのデジタル技術の実装に重点を置いている。国立大学イノベーション創出環境強化事業（令和２～３年度）で実践してきた体制・成果を基に、地方中核大学として、本構想への寄与を中心に、**地域・産業界の課題解決に資する事業を推進する中で、産業界等からの資金獲得を誘発し、知と資金の好循環を図るイノベーションエコシステムをさらに加速させる。**

「総合大学として、幅広い学問領域の“知”と“技”を結集した“オール岡大”体制で地域の課題解決の先駆的モデルを構築。
大学が地域に参画し、地域課題の解決に資する点が特徴（大学機能の出島化）

国立大学イノベーション創出環境強化事業（R２～R３）

取組１　IMaC（イノベーションマネジメントコア）の創設	取組２　共同研究費の費用負担の適正化	取組３ 新知財戦略の導入
取組４ 寄附金獲得体制強化	取組５ 岡山大学パートナーズ	取組６ ベンチャー等支援
取組７ CASTEM24-REMOTE	取組８　大学病院診療外事業の拡大	

ＩＭａＣ(2021.10創設）が**イノベーション創出の司令塔**の役割
- 全学組織横断的な産学連携強化及び研究力強化
- 「組織」対「組織」の大型産学共創研究を推進
- シーズ発掘ー基礎研究ー実用化へ一気通貫のプロジェクトマネジメント
- 異分野融合研究の推進　を加速化



ＩＭａＣ（取組１）
Innovation Management Core

ＩＭａＣのマネジメントにより**医療系のオープンイノベーションを推進・強化**

BIZEN Business Innovation Zone for ENtrepreneurship

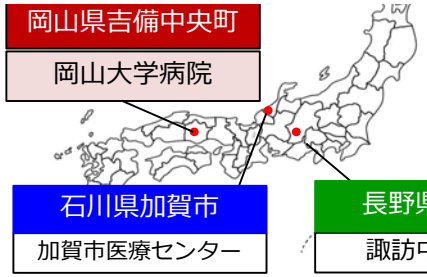
BIZEN（取組８）
Business Innovation Zone for ENtrepreneurship

デジタル技術の活用に関する国の施策・提言等

デジタル田園都市国家構想

新しい資本主義
デジタル化による地域活性化

デジタル田園健康特区に岡山県吉備中央町が指定（３自治体間での施策連携・データ連携）



2022.4.13
地域課題解決の先駆的モデル構築に向け、吉備中央町と連携協力に関する協定を締結

岡山大学研究担当理事が「吉備中央町事業統括アーキテクト」として牽引
複数の研究者が事業推進に参画・８月に学内プロジェクトチーム立ち上げ

3．取組の進捗状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【取組９】ヘルスケア領域におけるデジタル田園都市国家構想への挑戦（健康特区事業含む）

救急医療における救急救命士の役割拡大×健康医療情報の推進

（産学官連携で規制緩和を突破！）

NW状況調査

岡山大学病院Dr.Car車内のあらゆる機器をDX化⇒医師の指示の下、救急救命士の役割拡大

岡山大学病院内管制センターへ伝送・指示

デジタル田園健康特区事業における取組概要（吉備中央町、加賀市、茅野市）
共通の課題認識の下、健康、医療に関する複数のテーマを設定し、自治体間連携により先駆的事業を実施。

健康医療情報の連携
- 自治体データ連携
- 医療版情報銀行
- 母子手帳デジタル化

健康医療分野のタスクシフト
- 救急医療における救急救命士の役割拡大
- 在宅医療における看護師の役割拡大
- 健康管理におる薬剤師の役割拡大

創業支援他
- マイナンバー
- 在宅遠隔見守りサービス（スマートホーム）

移動・物流サービス
- ボランティアドライバーによる通院送迎
- 高齢者の通院時の運賃割引
- タクシーによる医薬品配送

予防医療・ＡＩ
- 妊産婦健診情報による予防医療
- ＡＩ・チャット活用の服薬指導
- 先端リハビリ機器・プログラム

■人口減少、少子高齢化など、地域における課題をデジタルで解決（だれ１人取り残さない）
■岡山大学医療系に加え、自然科学、社会科学等の**総合知と産業界の技術を結集（IMaCのマネジメント機能）**
■誰でも使いやすいデジタル生活環境の構築

※すでに複数の企業・機関から実証・研究開発に向け検討中

目標：ヘルスケア領域におけるデジタル田園都市国家構想に関する民間からの外部資金の受け入れ額

（単位：千円）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	対令和３年度
0	30,000	50,000	＋50,000

・健康特区に限らず、本学の中国四国地域でのネットワーク（中国四国橋渡し連絡会、中央西日本臨床研究コンソーシアム、多くの関連病院）を活用し、実証の場を確保。
・地域課題解決について、実証をテーマとした共同研究のみにとらわれず、実用化・社会実装まで、**IMaC、臨床研究中核病院、橋渡し研究支援認定機関の強固な連携で加速化させる。**
※地域中核大学における地域課題解決の先駆モデルになる。

4．交付金の活用状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

令和２年度（交付済：５億円【そのうち４億円を令和３年度に繰越】）
令和３年度（交付済：２億円）

目的	交付年度	使途	金額(単位:億円)	期待される効果
マネジメントの強化と高度専門人材の充実	R2	組織改組の検討支援委託費，職員向け研修，広報活動経費 等	0.16	**社会のニーズに合致する組織改組**により、企業側の安心感・納得感を得られ「組織」対「組織」による**大型共同研究の獲得増**につなげる。また、学内の研究シーズを見える化し広く企業に広報することが可能となり、**共同研究等の外部資金増**に資する。知的財産マネジメントの高度化を**図り知財収入を増加**させる。大学ブランドイメージ向上を図るとともに、関東圏を担当する専任のファンドレイザーを増員したことにより開拓した企業からの**寄附金収入を増加**させる。これらの取組により、**大学の経営基盤を強化し、教育・研究活動を精力的に推進し、社会への知の還元、社会貢献を行う**。
	R3	教員人件費，ﾌｧﾝﾄﾞﾚｰｻﾞ人件費 知財関係業務委託費･人件費 ERM構築事業 等	0.68	
教育研究の価値や既存ネットワーク研究基盤プラットフォームを「収益の価値」に転換	R2	研究設備更新，職員向け研修 WEBサイト構築経費	0.67	外部からのリモート利用に対応した研究設備の更新は、「人の移動を伴わない」新しい研究環境を構築することになり産学連携の活性化のみならず、我が国のアカデミアにおける基礎研究の在り方に変革をもたらす。また、学内の**研究シーズの見える化により**、さらなる共同研究の推進を図るとともに、**「共育・共創」事業の開発も進める**ことにより、大学と地域社会がともに発展することができる。
	R3	研究設備更新，職員研修 研究者紹介WEBサイト改修 等	1.12	
ビジネスに直結している医療系活動を強化した「収益の増強」を推進	R2	教員(PM)人件費，職員人件費 クラブスペース設備整備費 等	0.15	本事業費で整備した**高度研究支援人材、オープンラボ、先端解設備等を活用により、産学共創収入や民間等の研究資金を獲得**する。これにより国民の健康寿命延伸につながる**次世代研究に重点的に再投資し、イノベーション・エコシステムを構築**する。 ・BIZEN（Busines Innovation Zone for Entrepreneurship)プロジェクトや整備したゲノム解析設備利用により、民間資金（ラボ賃料、研究マネジメント料）及び競争的資金の獲得を加速する。 ・医療情報を活用した共同研究費・データセット料、希少価値の高い検体の分譲収入を獲得する。 ・エンゲージメントを基とする寄附制度（Club150会員）を発展させる。 ・デジタル田園健康特区（岡山県吉備中央町・茅野市・加賀市)に積極的に関与し、民間研究資金の獲得から地域課題の解決を図る。
	R3	企業ラボ改修工事･設備費 事業推進人件費，研究設備更新 医療データ閲覧システム 等	4.03	
出遅れているスタートアップやベンチャーとの協働活動の「流れ」をつくり「収益の芽」を育てる	R2	プレスリリース作成委託費，講師等謝金 等	0.02	大学発ベンチャー企業を創出する環境整備、風土が醸成されることに伴い、**大学の有する人的資源と研究シーズを用いて社会課題を解決する機会が増加**する。さらに、金融機関、ＶＣなど投資家との接点機会の拡大により、資金供給先の多様性の観点からも起業をサポートでき、**大学発ベンチャー企業を通じた持続的な外部資金獲得が可能**になる。
	R3	ベンチャー発掘支援， アントレプレナーシップ醸成事業 等	0.17	

5．大学収入の状況

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

＜民間資金獲得額＞

令和3年度フォローアップ調書提出時

費目名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度計画
取組2：産学連携による間接経費収入	0.82	1.10	＜*1.16*＞1.17
取組4：寄附金収入	0.48	0.79	＜*0.80*＞1.00
取組3：特許収入	0.13	0.27	＜*0.13*＞0.27
取組7：研究機器産学利用収入	0	0	＜*0.50*＞0.30
取組8：医療系（診療報酬外）収入	0	0.78	＜*1.15*＞1.59
取組5：その他収入	0.02	0.02	＜*0.30*＞0.15
民間資金獲得額 **※取組による獲得額**	1.45	2.96	＜*4.04*＞4.48

（単位：億円）

取組2による民間からの共同研究収入について	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度計画
総額	4.40	5.01	5.08
直接経費	3.58	3.91	3.91
間接経費	0.82	1.10	1.17

＜*斜体*＞は申請時に提示した当初の計画金額であって、
令和3年度フォローアップ調書にて正体の金額に変更。

実績

費目名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
取組2：産学連携による間接経費収入	0.82	1.10	1.18
取組4：寄附金収入	0.48	0.79	1.50
取組3：特許収入	0.13	0.27	0.40
取組7：研究機器産学利用収入	0	0	0.06
取組8：医療系（診療報酬外）収入	0	0.78	2.52
取組5：その他収入	0.02	0.02	0.52
民間資金獲得額 **※取組による獲得額**	1.45	2.96	6.18

（単位：億円）

取組2による民間からの共同研究収入について	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
総額	4.40	5.01	4.83
直接経費	3.58	3.91	3.66
間接経費	0.82	1.10	1.18

＜民間資金獲得額（つづき）＞

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

実績及び令和4年度以降の計画　（単位：億円）

費目名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度計画	増加額 令和4ー令和元	令和5年度計画	増加額 令和5ー令和元
取組2：産学連携による間接経費収入	0.82	1.10	1.18	＜*1.23*＞1.25	0.43	1.29	0.47
取組4：寄附金収入	0.48	0.79	1.50	＜*1.00*＞1.20	0.72	1.20	0.72
取組3：特許収入	0.13	0.27	0.40	＜*0.14*＞0.28	0.15	0.29	0.16
取組7：研究機器産学利用収入	0	0	0.06	＜*0.9*＞0.10	0.10	0.20	0.20
取組8：医療系（診療報酬外）収入	0	0.78	2.52	＜*3.21*＞3.34	3.34	3.50	3.50
取組5：その他収入	0.02	0.02	0.52	＜*0.41*＞0.61	0.58	0.62	0.60
取組9：デジタル田園国家構想に関する民間等からの外部資金収入【新規追加】	―	―	―	＜*0*＞0.30	0.30	0.50	0.50
民間資金獲得額（全体） **※取組による獲得額**	1.45	2.96	6.18	＜6.89＞7.08	5.63	7.60	6.15

「民間からの共同研究収入」について	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度計画	増加額 令和4ー令和元	令和5年度計画	増加額 令和5ー令和元
総額	4.40	5.01	4.83	5.16	0.76	5.32	0.92
直接経費	3.58	3.91	3.66	3.91	0.33	4.03	0.45
間接経費	0.82	1.10	1.18	1.25	0.43	1.29	0.47

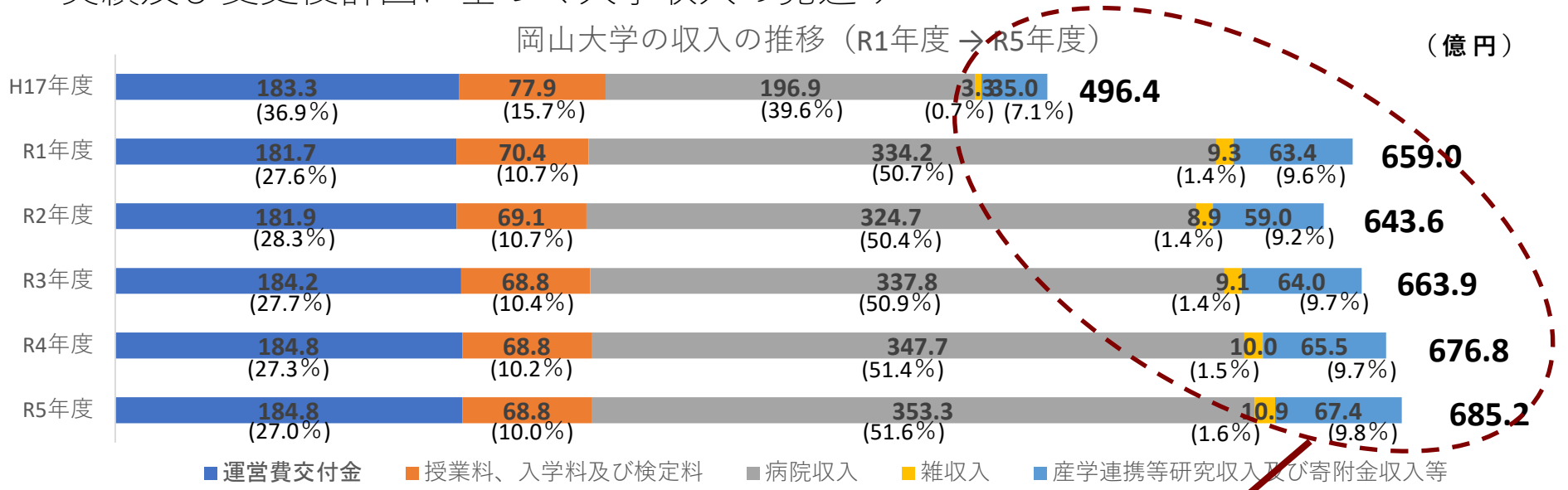
注1）令和4年度計画において、＜*斜体*＞は申請時に提示した当初の計画金額、正体は現時点での計画金額を示す。
注2）令和2、3年度においては、**（実績額＞計画額）は青文字、（実績額＜計画額）は赤文字**で示す。
注3）令和4年度においては、**（現在の計画額＞当初の計画額）は青文字、（現在の計画額＜当初の計画額）は赤文字**で示す。

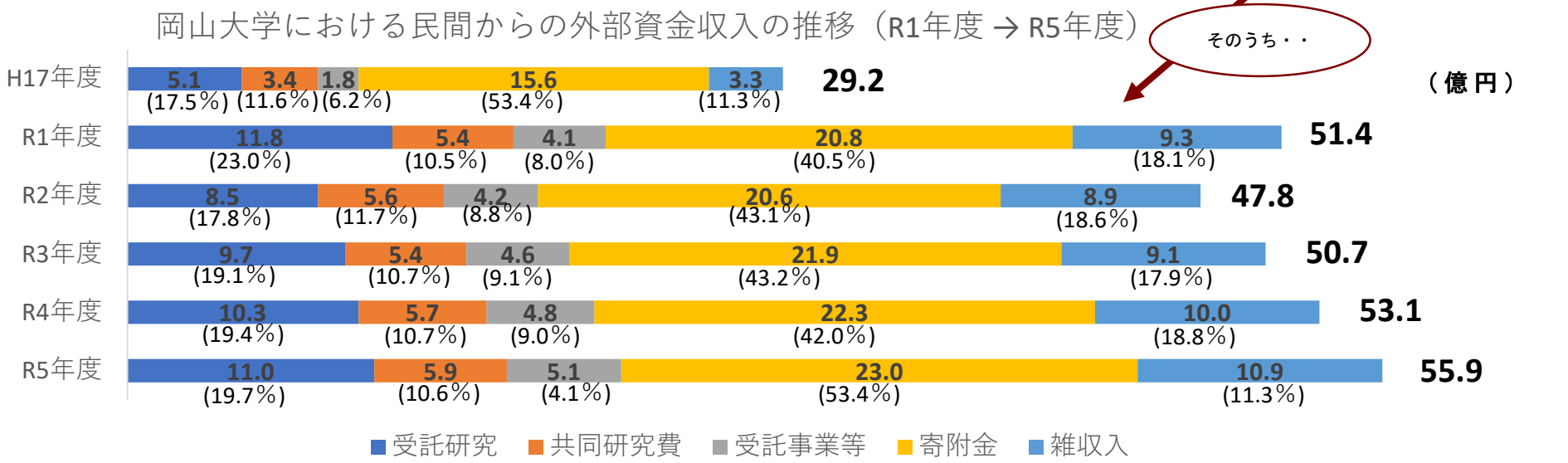
本事業の実施効果（※）は令和2～5年度累計で 18.02億円 の見込み。
（※R元年度を基準（=0）とした事業の効果額　R2分：1.51億円、R3分：4.73億円、R4分：5.63億円、R5分：6.15億円）

5．大学収入の状況

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

＜実績及び変更後計画に基づく大学収入の見込み＞

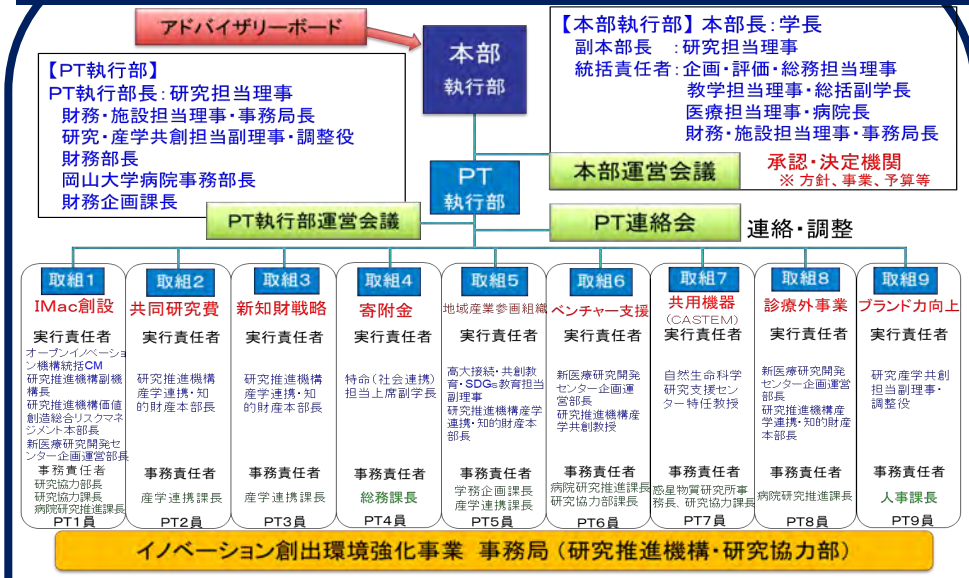




6．その他（政策的効果、特筆すべき効果）

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

ウォーターフォール型手法から アジャイル型手法への変革



【令和2～3年度】

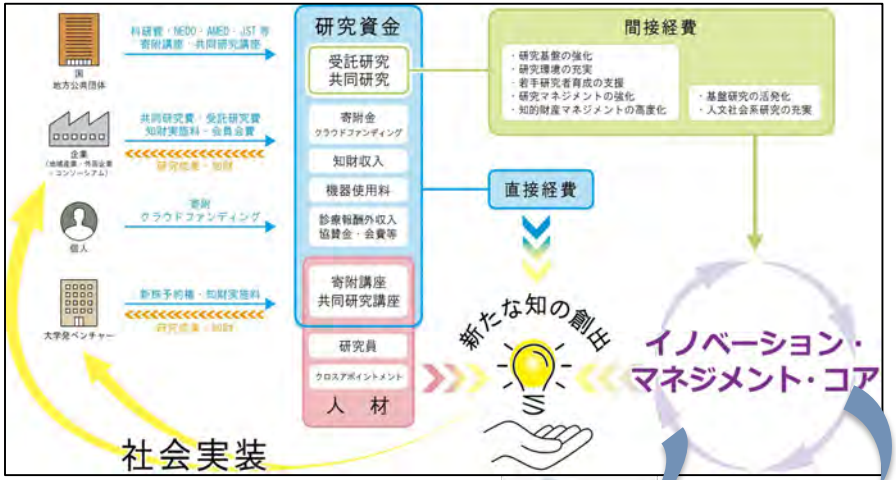
・**学長をTOPとするガバナンス体制を構築**し、事業を強力に推進。
・職種や所属を超え、ミッションに対し様々な関係者が参画する**アジャイル型手法が学内へ浸透**。**教職協働の成功事例**。
・**IMacもアジャイル型手法**で創設し、効果を発揮。

【令和4年度以降】

・**IMac等の成功事例を踏まえ**、アジャイル型手法を用いて、大学経営の戦略・戦術を企画・立案・実動する学長直下の指揮調整組織「**価値創造ナレッジマネジメントオフィス**」**の創設を構想中**。
・業務プロセスが明らかな案件は、従来型のウォーターフォール型手法、挑戦的な事業や複雑性が高くトライ&エラーを繰り返しながら改善を積み進める案件はアジャイル型手法を用いる。
・**両方の手法を用いるハイブリッド方式にて、組織改革を加速**。

研究成果の社会実装に伴う収入を、新たな研究成果の創出に繋げるイノベーションエコシステムの定着

・**IMacが各取組を先導**し、イノベーション創出を推進。
・研究成果の社会実装により、民間からの投資を呼び込み、強みの分野や次世代研究拠点に再投資し、更なる研究成果の創出に繋げる**イノベーション・エコシステムが全学的に定着**している。
・強みの分野をさらに強く、次世代研究拠点を育成するために、先端研究設備を自己調達し**先行投資を実施**。



（調達予定 4～5億程度）
【クライオ電子顕微鏡】
（中国四国地区初）
令和5年度自主財源で整備
（戦略的リソース投資）

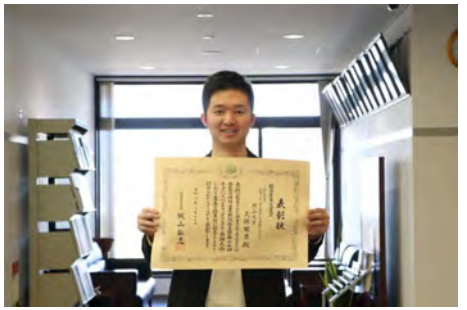
（調達済）

参考資料（その１）

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

岡大発　有望ベンチャーが次々に誕生！

●キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で、2020年度に(株)ABABAが『経済産業大臣賞』受賞、2021年度に(株)TechSwordが『文部科学大臣賞』受賞と２年連続で本学の学生ベンチャーが大臣賞受賞の快挙！


経済産業大臣賞を受賞した久保さん

●(株)ABABAが公益社団法人日本青年会議所（JCI）の第５回価値デザインコンテスト（2021年7月）で『SDGs日本賞』を受賞！

文部科学大臣賞を受賞した
長島さん（左）と宮本さん（右）

●(株)TechSwordが東京のVC「East Ventures」から第三者割当増資により大型の資金調達に成功！

●そなえ(株)が岡山イノベーションコンテスト2021でグランプリ獲得！

参考資料（その２）

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

はやぶさ2が持ち帰った リュウグウ試料の初期総合解析に活用！

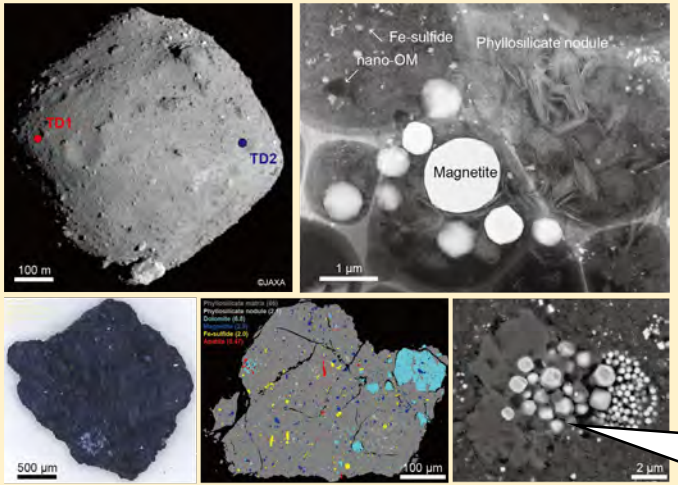
「**小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセルと小惑星リュウグウのサンプル特別展示 in 神戸**」（R4 6/18・19）において走査電子顕微鏡・EDX分析システムを**CASTEM 24 Remote**を利用して遠隔操作するアウトリーチ・PRを実施

バンドー神戸青少年科学館

遠隔機器利用の様子

セキュアネットワーク

岡山大学惑星物質研究所（鳥取県三朝町）



Nakamura et al.（2022） Proceedings of the Japan Academy Series B, Vol.98, No.6 表紙画像

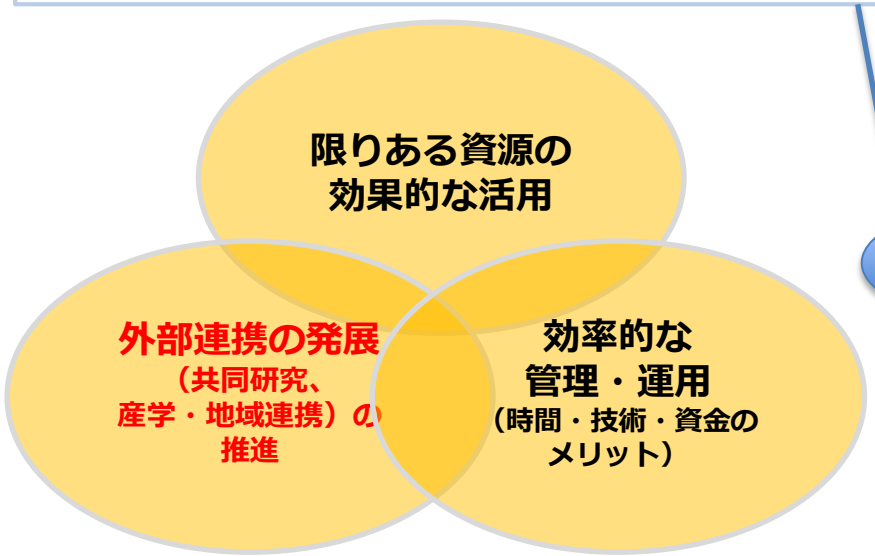
- 本事業で整備した**セキュアネットワーク**基盤を活かし機器遠隔利用をデモ
- **有効性を一般企業にもアピール**

地球惑星物質総合解析システム（CASTEM 24 Remote）によるリュウグウ試料初期総合解析の結果公表→高度な研究成果をベースにした事業展開へ

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

研究設備の共用化・学外利用の促進（コアファシリティ実施）

イノベーションエコシステム定着に伴い、
強みの分野・成長分野に投資する文化が醸成。



先行投資

①設備共用・ワンストップポータル導入
②受託試験・設備の学外解放・マネタイズと経営改善・**共同研究促進**
③設備利用情報一元化と効果的導入・マスタープラン
④技術職員の技術伝承・高度専門職員化

【クライオ電子顕微鏡】
（中国四国地区初）
令和5年度自主財源で整備
（戦略的リソース投資）

R５年度コアファシリティ実施
（研究設備・機器のシェアリングによる好循環）

R3経営改革促進事業で進めてきたコアファシリティ計画を拡充し本格始動！